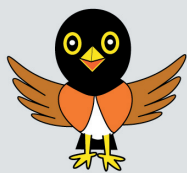


こっこめ通信 09 2003

「こんな生きものもいるの！」号



八丈島ではアカコッコの事を親しみを込めて
「こっこめ」とよびます。

台風が多いのではないかとされた夏ですが、島は日本列島を縦断した台風 10 号の間接的な影響だけでした。それでも、飛行機や船の欠航があり、島に遊びに来られなかった方も多かったようです。天候は冷夏と言われている関東地方よりは良く、気温も平年並みに落ち着きそうです。

今年のビジターセンターの来館者は家族連れの姿が多く、館内でクラフトや塗り絵をする姿も目立ちました。8 月も終わりになってホトトギスも去り、島は秋の気配がこくなってきました。

さて今回は、夏の行事報告と島にやってきた新しい住人のお話です。

夏休み特別プログラムだ！

三原山縦断トレッキング



ペルセウス座流星群観望会



今年も夏休み特別プログラムが行われました。

8 月 10 日に行われた「三原山縦断トレッキング」は、山頂こそ雲がかかっていましたが、天気恵まれ、みんな元気に山登りができました。12 日の「潮だまり探検隊」は曇り空の中、乙千代ヶ浜の潮だまりでいろいろな生き物に出会うことができました。13 日の「ペルセウス座流星群観望会」は残念ながら星が雲に隠れてしまい、室内で島の星空をプロジェクターで投影してのお話になってしまいました。17 日は島の火山灰を使って絵を描き、24 日は島の竹を使ってオカダトカゲを作りました。

夏の行事は毎年恒例になっています。今年参加できなかった人は来年こそ参加してみたいはいかがですか？

子供クラフト教室「火山灰アート」



子供クラフト教室「竹ビーズでオカダトカゲ」



「アカコッコ」とは日本固有のツグミ科の鳥で、国の天然記念物にも指定されています。
八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

島にやってきた新しい住人

八丈島は大陸とは陸続きになった事がない海洋島であると思われています。島にいる生物はどうか島に渡ってきたものですが、中には人によって運ばれてきた移入種もあります。移入種の中には、意図的に導入したものや島に運ばれたものに紛れてきたものがあります。

今回は最近、島の住人になってしまった生きものたちを紹介します。

ニホンイタチ *Mustela sibirica itatsi*



八丈島のイタチは、ネズミによる被害を解決するために1959年から1961年にかけて、45組のつがいの人為的に放った事が始まりです。

本来、島の哺乳動物は唯一、コキクガシラコウモリだけでした。ネズミも人の来島に混じって入り込んだものと思われています。そのためイタチの敵になるものがないため、島の中で数を増やしていったと思います。イタチを入れたことでネズミの数は減りましたが、そのほかにも島特有の「オカダトカゲ」や天然記念物の「アカコッコ」までも数を減らしてしまいました。そして「オカダトカゲ」などを餌としていた「マムシ」の数も減ってしまったと思われています。

最近では少し数が持ち直してきているのがせめてもの救いですが、いったん壊された生態系は元には戻らないですね。

ミナミヤモリ *Gekko hokouensis*



ヤモリがいつから島にいるかははっきりと分かっていません。しかし今ではごく普通に見られ、島に定着していることは間違いありません。

本来ヤモリは人家などに住むことが多いようですが、島の中では野外に多く、外灯の下などで虫が来るのを待ちかまえてる姿もよく見かけます。また岩の下や枯れ葉の下で卵を見つけることもできます。

採集して同定したところ、尾の付け根の大きな鱗が左右1個だったこと、背中に細かい鱗しかないことからミナミヤモリとしましたが、他の種類がないとも限りません。

アマミサソリモドキ *Typopeltis stimpsonii*



ムチサソリとも呼ばれるこのアマミサソリモドキは、サソリに近い仲間ですが、毒はなく、刺激すると肛門線から強い酢酸臭のガスを噴霧します。

奄美諸島～熊本県天草牛深にかけて分布していることから、島に持ってきた園芸植物に混じって入ってきたと思われます。

アマミサソリモドキが島で初めて見つかったのは1968年（昭和43年）頃ですが、現在は島のいたる所で見ることができます。夜行性で日中は石の下や倒木下に潜んでいます。おもしろい生態で卵塊を腹面に付着させ、ふ化した仔虫は腹背面に乗せます。

ミミズヘビ *Ramphotyphlos braminus*



大きさは15cmほど、一見ミミズのようにしか見えません。それでも目をこらしてちゃんと見ると、鱗がはっきりと分かります。また、どっちが頭か尾か分かりませんが、ヘビらしく舌をペロペロとしているのも見えます。

このヘビは地中性で、耕地や枯れ葉や落ち葉のたい積した場所で見られます。南西諸島や小笠原などに分布していることから、このヘビも園芸植物の土に混じって島にやってきたと思われる。

白い楕円形の卵を一度に3～6個産むことや、雌だけの単為生殖もすることから数が増えたのかもしれない。

サツマゴキブリ *Opisthoplatia orientalis*



体は楕円形で黒く、前方の頭のように見える胸の部分に半環状の黄色い縁取りが入っています。前後翅（はね）が退化していることや、卵胎生でふ化した幼虫がでてくるのも特徴です。幼虫の頃は成虫とは違い全体が茶色なので違う種にも見えるかもしれません。

ゴキブリですが、普段は朽ちた木の下や石の下でじっとして、屋内に入ることがほとんどありません。島の中では1975年（昭和50年）頃から見られ、今では全島で見られます。

ビジターセンターではサッチャンと呼び、ペーパークラフトにもなっています。

リュウキュウツヤハナムグリ *Protaetia pryeri*



島にはシロテンハナムグリという種が昔から知られていました。しかし、現在はこのシロテンハナムグリは数を減らし、初夏にはリュウキュウツヤハナムグリが、カラスザンショウやハチジョウショウマ、ソテツの花に群がっている光景を目にします。時には「ブ〜ン」と言う羽音がどこからともなく聞こえてくるほど数が多くなっています。

1992年（平成4年）からの記録がありますがそれ以前にいた可能性はあります。また、年々数が増えてきているようにも感じます。この虫は幼虫の段階で園芸植物の土に紛れて入り込んだと思われる。

今回紹介したものは代表的なものですが、他にも「キジ」など狩猟用に放鳥したものや、「ヘイケボタル」など人為的に移入したものもあります。また、最近は「アオダイショウ」の目撃例が多く寄せられますが、木に登り鳥の卵などを捕食するこのヘビは島の生態系を脅かす存在になるかもしれません。

先日島で捕まえたクワガタムシと言って、ビジターセンターに持ってきたクワガタムシがありました。しかし島にいないはずの他の地域のクワガタムシでした。このようなクワガタムシが放たれることにより、島の固有性が失われてしまうこともあるのです。

島嶼という狭く、隔離されている場所では、移入という問題はとても大きく、この先全く違う島になってしまうおそれもあるわけですから、しっかりと対処していかなければいけないと思います。

2003 八丈ビジターセンター 9 プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時間は、八丈島（神湊）の潮の満ち引きの時間です。
左側が満潮時間、右側が干潮時間です。また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6 ガイドウォーク
	08:03 01:42 19:54 13:52	09:03 02:28 20:18 14:25	10:29 03:23 20:44 14:58	13:03 04:37 21:19 15:45	15:18 06:15 22:49 19:02	07:47 15:59 21:10
7 ガイドウォーク	白露 8	9	10	11	12	13 ガイドウォーク
01:20 08:53 16:27 21:50	02:40 09:42 16:53 22:20	03:36 10:22 17:17 22:48	04:21 10:56 17:39 23:16	05:01 11:27 17:59 23:43	05:38 11:56 18:17	06:14 00:11 18:35 12:22
14 ガイドウォーク 植物公園季節調査会	15 ガイドウォーク	16	17	18	19	20 ガイドウォーク
06:51 00:40 18:54 12:48	07:28 01:10 19:12 13:13	08:09 01:44 19:31 13:37	08:57 02:21 19:48 13:59	10:09 03:08 20:03 14:17	04:13 20:10	05:49 15:33
21 ガイドウォーク	22	秋分 23 ガイドウォーク	24	25	26	27 ガイドウォーク 八文学講座 「ヤシ類に着生する植物」
07:22 01:19 15:40 15:58	08:27 01:38 21:38	02:30 09:15 16:19 22:00	03:22 09:56 16:41 22:25	04:07 10:34 17:05 22:55	04:52 11:11 17:30 23:26	05:38 11:46 17:54
28 ガイドウォーク	29	30				
06:24 00:01 18:18 12:21	07:13 00:37 18:41 12:54	08:07 01:16 19:05 13:26				

イベントプログラム

植物公園季節調査会

植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を一緒に感じよう
9/14 (13:30～ 約1時間半)
中学生以上 ビジターセンター集合・解散 無料 定員:15名

八文学講座

「ヤシ類に着生する植物」

毎月行っている八文学講座。今回は、ビロウやフェニックスに着生する植物観察会です。
9/27 (13:30～ 約1時間半)
中学生以上 ビジターセンター集合・解散 無料 定員:15名

ビデオプログラム

10:00～ 八丈・海・生きものたち

11:00～ おじゃりやれ 八丈島

14:00～ おじゃりやれ 八丈島

15:00～ おじゃりやれ 八丈島

16:00～ 八丈・海・生きものたち

上記以外での上映は予約にて可能です

東京都八丈ビジターセンター 2003.9.1 第28号

開館時間 9:00～16:30 年中無休 (入場無料)

〒100-1401

東京都八丈島八丈町大賀郷2843

電話:04996-2-4811 Fax:04996-2-4888

(ホームページでは「こっこめ通信」をカラーで見ることができます)

編集後記

どうやって島にやってきたのだろうと思う生きものはたくさんいます。そこが八丈島のおもしろい所でもあるわけで、はまってしまった原因でもあるわけです。毎日がとっても楽しいですよ。(高)